

心身の不調「サイン気付いて」

異例の長期休校から、久しぶりに学校に戻る子どもたち。新型コロナウイルスの感染対策を取った新しい生活が始まり、心身の不調を心配する声は強い。学校現場では子どもたちのケアが始まっている。(今村節)

岐阜市教委が十二日に始めた電話教育相談では「学習が遅れて進路に影響しないか」「家でゲームばかり」など、十五日までに小学生や保護者から二百九十二件の相談があった。担当者は「予想より多かった。不安な人は多いと思う」と話す。

不登校などの相談に応じる名古屋市の総合相談窓口「ハートフレンドなごや」は相談増を見越し、電話相談員に電話対応の特別研修

の再開直前に希望者と個別面談する。名古屋市では再開後、身体測定で体の傷や体重減少がないかなど虐待の兆候を確認する。

名古屋市の元小学校長で愛知教育大非常勤講師の鬼頭昌也さん(60)は「不登校やいじめにつながらないよう、スタート時点でのケアが大事」といい「ストレスの多い日々を過ごし、交友関係に変化があった子もいるだろう。休校中に出した宿題の進捗から家庭の状況やケアの必要性も分かるはず。子ども一人一人に声をかけ、小さなサインに気付くことが重要」と語った。

各地の小中学校はアンケートなどで心の状態をチェックする予定。十八日に学校を再開した津市教委の担当者は「各校に子どもとの関係をしっかりと構築してほしいと伝えた。生活習慣も整えないといけない。助走期間が必要」。岐阜市では家庭訪問のほか、六月一日